

7月	展開する天皇・貴族の政治	<ul style="list-style-type: none"> ・権力を握った貴族たち ・唐風から日本風へ変わる文化 	<p>から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>②東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③律令国家の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>2</p> <p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂関政治をもとに平安京における貴族の政治の特色をとらえさせる。 ・東アジアの情勢の変化によって、わが国でも政治と文化において独自の動きが見られるようになったことに気づく。 ・日本独自のかな文字が発明され、それを使った文学作品が書かれたことなどに気づかせ、文化の国風化が進んだことを理解させる。 ・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養う。 <p>《評価規準》</p> <p>①摂関政治のもと、平安時代は、藤原氏の皇室との姻戚関係や広大な荘園の所有を背景に政治の実権が天皇から貴族に移行していったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。</p> <p>②かな文字の成立などをもとに、文化の国風化が進んだことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。</p> <p>③平安京への遷都や密教の興隆、国風文化の形成に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>④律令国家の形成や古代の文化と東アジアとの関わりについて、「章の問い」と関連づけながら「中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。《指導内容》</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>	<p>①社会科における基礎的・基本的な知識・理解が定着しているか、また、資料を活用して理解できているかを、テスト等を活用して評価する。(単元テスト等)</p> <p>②社会的事象に対して、自分の考え方をまとめられるかを、テスト等を活用して評価する。(単元テストや課題等の発表内容等)</p> <p>③社会的事象に対して、主体的に追究しようとしているかを評価する。(ワークシートや課題等への取組の姿勢等)</p>
8月9月	武士の世の始まり	<ul style="list-style-type: none"> ・各地で生まれる武士団 ・朝廷と結び付く武士 ・鎌倉を中心とした武家政権 ・武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化 	<p>4</p> <p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解させる。 ・武家政治の特徴を考察し、天皇や貴族の政治との違いという観点から、古代から中世への転換の様子を気づかせる。 ・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養う。 <p>《評価規準》</p> <p>①鎌倉幕府の成立により、主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がるとともに、武士の気風にあった力強い文化が発展したことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。</p> <p>②武士の政治への進出と政治の展開、貴族の政治との違いに着目して、武家政権の特徴を事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③武家政権の成立とユーラシアの交流について、「章の問い」と関連づけながら「なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。</p>		
10月	武家政権の内と外	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国「蒙古襲来」 ・南北朝の内乱と新たな幕府 ・東アジアの交易と倭寇 ・琉球とアイヌの民族が つなぐ交易 	<p>4</p> <p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元寇がユーラシアの変化の中で起こったことなど、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解させる。 ・南北朝の争乱の中で室町幕府が成立し、武家社会が次第に大きな力をもっていったこと、日明貿易で銅銭が大量にもたらされ、貨幣経済の発達を促したこと、琉球が日本、明や朝鮮、東南アジア諸国との中継貿易を行っていたことに気づかせる。 ・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養う。 <p>《評価規準》</p> <p>①蒙古襲来が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などの知識をもとに、武家政治が東アジア世界と密接な関わりをもちながら展開していったことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。</p> <p>②東アジアにおける交流に着目して、モンゴル帝国の拡大や衰退が国内の政治や社会に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③武家政治の展開と東アジアの動きについて、「章の問い」と関連づけながら「ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。</p>		
11月					
12月	人々の結び付きが強まる社会	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の発達とさまざまな職業 ・団結して自立する民衆 ・全国に広がる下剋上 ・庶民に広がる室町文化 	<p>4</p> <p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業など諸産業の発達や畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみが成立し、当時の社会の大きな変化であることや、それにとまって商品流通が活発化してことに気づかせる。 ・武家政治の展開や民衆の成長を背景とした多様な文化が生まれたことを理解させ、この時代の文化の中に現代に結びつくものが見られることに気づかせる。 ・各地に戦乱が広まる中で戦国大名が登場し、自らの領国を支配して分国法を定めたり、城下町を形成して産業の復興に努めたりしたことや、下剋上の風潮など、社会全体が大きく変化していったことに気づかせる。 ・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養う。 <p>《評価規準》</p> <p>①農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的なしくみの成立、多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などをもとに、</p>		

12月1月	大航海によって結び付く世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの変革 ・大航海時代の幕開け ・東アジアの貿易と南蛮人 	4	<p>民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解していると同時に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる。</p> <p>②農業や商工業の発達に着目して、民衆の成長が社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③民衆の成長と新たな文化の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きにともなって、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易がさかんになり、それらが日本の社会に影響を及ぼし、近世社会の基礎がつけられたことを理解させる。 ・新航路の開拓の背景となるアジアの交易の状況やムスリム商人などの役割と世界の結びつきに気づかせる。 ・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養う。 <p>《評価規準》</p> <p>①十字軍の遠征を通じたイスラム勢力との交流や、それに伴うローマ教皇の権威の衰えが近代ヨーロッパ世界の形成を促したこと、新航路の開拓とヨーロッパの人々の進出により世界の一体化が始まったことを理解していると同時に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。</p> <p>②ヨーロッパの人々による交易の広がりとその影響に着目して、ヨーロッパ諸国が世界各地に進出するなかで世界の交易の空間的な広がりが生み出され、それを背景として日本とヨーロッパ諸国の接触が起こったことや、日本の政治や文化に与えた影響などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ヨーロッパ人來航の影響とその背景について、「章の問い」と関連づけながら「ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>①社会科における基礎的・基本的な知識・理解が定着しているか、また、資料を活用して理解できているかを、テスト等を活用して評価する。 (単元テスト等)</p> <p>②社会的事象に対して、自分の考え方をまとめられるかを、テスト等を活用して評価する。 (単元テストや課題等の発表内容等)</p> <p>③社会的事象に対して、主体的に追究しようとしているかを評価する。 (ワークシートや課題等への取組の姿勢等)</p>
2月3月	戦乱から全国統一へ	<ul style="list-style-type: none"> ・信長・秀吉による全国統一 ・秀吉が導いた近世社会 ・戦国大名と豪商が担った桃山文化 	4	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長が行った仏教勢力への圧力や関所の撤廃、豊臣秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって、中世の大きな勢力が力を失ったことや、中世までとは異なる社会が生まれていったことなどの大きな変化に気づかせる。 ・当時の対外関係として、東南アジアなどとの積極的な貿易、キリスト教への対応、朝鮮への出兵などがあったことを取り上げる。 ・南蛮文化が取り入れられる一方、生活に根ざした文化が広がり、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪華・華麗な文化が生み出されたことに気づかせる。 ・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養う。 <p>《主な評価規準》</p> <p>①織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などをもとに、近世社会の基礎がつけられたことを理解していると同時に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>②統一政権の諸政策の目的に着目して、中世社会から近世社会への変化が生み出され、日本の政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③統一事業について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	